

	山形県木材産業協同組合
	〒990-2473 山形市松栄 1-5-41
	TEL.023-666-4800 FAX.023-646-8699
	URL: http://www.mokusankyo.com
	E-mail: yamawood@mokusankyo.com

目次	1. TPPの大筋合意を受けて	4. 木工品のコンペ事業開始
	2. 林業まつり実績報告会開催される	5. お知らせ・会議・イベント等
	3. 木産協研修会(3部構成)終了	6. 10月期住宅着工状況



1 TPPの大筋合意を受けて

環太平洋経済連携協定(TPP)が、10月5日に、参加12ヶ国の間で大筋合意に達した。概要は、合板及び製材は、輸入額の多い国または輸出額の伸びが著しい国に対して、発行から16年目までの関税撤廃期間とセーフガードを国別に設定すること。また、違法伐採された木材貿易に対する規制についても合意した。

現在の木材に関する関税は2~10%程度で、農産物ほど高くないことや輸入が急増すれば関税を引き上げる緊急輸入制限(セーフガード)が導入されることもあり、農水省や県は、木材に関しては、影響は限定的という見解である。

一方で、就業者が減少している国内林業の体質強化及び関税撤廃による国産合板の需要減少の懸念に配慮して補正予算による支援を実施するとしている。

製材関連では、地域材の利用拡大を図る国内製材業等に対して、設備投資の費用を助成する方針となっている。

このページでは詳細は記載できないが、木材業界に対して、影響は「限定的」、「軽微」と言っているが、突き詰めて考えると様々な事態が想定される。

今回の交渉では、関税が即時撤廃されるものや10年間均等引き下げの後、11年目で撤廃するものもある。これらはセーフガードは付いていない。

現在、マレーシアの合板類150万m³程度及びカナダの針葉樹合板約23万m³と2×4住宅の部材であるSPF(スプルース、パイン、ファー)約150万m³が輸入されているが、これらについて、協定発効時に50%の関税引き下げを行い16年目で関税を撤廃するとなっている。セーフガードは付いているが各国との個別交渉となりまだ具体的数量は提示されていない。

2~10%の関税であり、ここに変化があっても大して影響はなく、むしろ為替変動のほうが影響が大きいという見解のようだが、素直に考えれば、関税引き下げと円高の両方の変動が起こればダブルで影響を受けることにもなるわけである。

消費税のアップにより、利益が無くなりかねない木材関係業界にあって、決して油断できない数字なのではないだろうか。現在、住宅着工が良好と言われているが、内容は2×4住宅が大きく伸びているのであり、地元材を利用する住宅の伸びが高いわけではない。そして2×4住宅の主用部材は、今回主役のSPFである。

また、住宅に対する木代金は10%以下といわれて久しく、住宅建築費全体の中では影響は小さいが、地域材を生産・加工出荷している業界としては、輸入製材品が一層入りやすくなるわけで、大きな煽りを食らう恐れもある。

今後、住宅着工の減少が予想される中で、もう一つ課題が増えたわけであり、これらの動きをしっかりとらえて、得意分野の伸長を図ることや新規の取組み方向を早急に検討する必要がある。

2 「第 25 回林業まつり」実績報告会!!

11 月 30 日 (月) 山形市内ホテルキャッスル会議室において、標記実績報告会が開催され、細野実行委員長等 29 名が出席した。木産協からは理事長代理で松田副理事長等が出席した。

席上、実績報告、収支決算について承認されたほか、平成 28 年度、第 26 回林業まつりの開催についても、本年度と同様の体制で継続実施することが決定された。

課題等について意見交換が行われ、関係団体等との調整や情報収集を行い善処していくことになった。概要・課題等は次のとおり。

(1) まつり概要

	項 目	内 容	摘 要
①	実行委員会	7.24 県産業創造支援センター	25 団体・機関出席、開催要領・予算等検討
②	日時・会場	10.17~18 県総合運動公園	両日晴天・第 62 回林材業年次大会等併催
③	来 場 者	38,000 名 (昨年 35,000 名)	東北マーチングフェスティバル等公園で開催
④	出展者等	69 団体・機関、90 ブース (他農業関係 54 団体等、45 ブース)	昨年：67 団体、88 ブース (控テント除く)
⑤	全体概要	森林・林業、木材産業、特用林産業、緑化事業、木造住宅建築業、木工業等の業界団体の他、関係各機関の出展も多く見られ、環境保全等も含めた幅広い普及啓発の場となっており、毎年楽しみにしている県民が多い。	

(2) 新しい取り組み(気づいたものをピックアップ)

	内 容	評 価 等
①	「やまがた技能五輪・アビリンピック 2016」PR の木工工作等実施。	やまがた技能五輪 PR のため、商工労働観光部から子供を対象にした木工工作体験の出展があり、コンパネ 1 枚を 1 人が使えるように、参加者を限定し、本格的指導者が付いた取り組みで賑わっていた。
②	三次元プレカット加工構造物の展示 (シェルター)	アジアでは初のお目見えとなる三次元プレカット加工による製品展示があり、曲線加工等が自在にできることから、住宅などの意匠性が大きく変わることも予想され、関心を集めていた。
③	高次加工木製品 PR と「野点」とのコラボ (クネット東北)	杉単板を圧縮木材にし、積層加工し、一定の強度と意匠性を持たせた住宅部材の展示があり、新しい活用方法として注目を浴びた。また、出展者は展示箇所の一部を使い、「野点」を行うことで、日本の伝統文化と新商品 PR のコラボが斬新であった。(商品は天童木工製) なお、野点の茶菓子代は、緑の募金に寄付されたと聞いている。
④	太陽光発電木製装置架台展示(匠まさの)	太陽光発電装置の設置台を防腐処理した木材で製作したもので、コンクリート土台付の大作であった。
⑤	アトラクション 酒田市の木遣り唄、 福島県の山木屋太鼓、 長井市のけん玉故郷プロジェクトによる「けん玉教室」等	「祭り」の存在を広く知っていただく意味あいから、毎年新しい取り組みを導入しているわけだが、酒田市の木遣り唄は、現在保存会で傳承されているもので、林業まつりでは初のご披露である。ケン玉では、ステージを使わずに、反対側の餅まき広場で行われた。この結果、祭り全体では同時に二つのステージイベントが、異なる場所で行われる形となり、新しい会場の使い方としての意義もあった。山木屋太鼓は、地域の小学生から青年層までのメンバー総出演で、演奏も立派であった。
⑥	木製巨大昆虫模型の展示 (木産協)	木産協が実施している地域材の普及啓発事業で製作した、大型の木製昆虫模型は、遊具として人気があり、写真スポットとして使われていた。なお、これら大型昆虫模型については、みどり推進機構にお引取りいただき、来年度、また、様相を変えて登場してくるものと考えている。

(3) 課題 (今年度の課題と当面の対応)

今年度は大きなトラブルはなかったが、課題は散見され、次の提案があった。これら大小の課題に丁寧な検討を加え、県内最大級のイベントとなった林業まつりに対する、有意義で、安全・安心なイベントとしての評価を獲得し、木材関連業界の信用度のアップにつなげていきたい。

	項目	内容と当面の対応
①	飲食関係による会場の汚れ	舗装面の汚れに対し、シートの準備や素早く拭き取る等の対応で、例年と比べると、翌日の清掃も軽くて済んだ。課題が多かったのは食彩まつりブースであった。今後も、情報を集め提供し、出展者に留意していただく。
②	安全・安心の徹底	<p>昨年の天童市の火災予防条例の一部改正で、今年度はさらに厳しい対応が求められた。準備の徹底を図ったが、火器等使用16カ所の内7ヶ所が指摘された。</p> <p>【消火器が古い(1)、消火器のサイズが異なる(1)、消火器が無い(3)、電源からのコードを伸ばして使用する(2)等】</p> <p>対象は、イベント会場内での全ての火器、電熱器であり、来年度はさらに徹底を図りたい。(客用及び出展者専用のもの全てが対象)</p>
③	出展者レイアウト	出展テントの位置関係について、全体を見回しながら配置しているわけだが、調整不足から事前であったが多少混乱した。このへんも修正を図りたい。
④	洗い場について	トイレの前の蛇口しかないことから、出展者は基本的に洗い物無しで対応できる体制を組んでいただくことをお願いしているが、「鍋」等の洗い物をしている方もおり、給水者の行列ができる。運動公園ということで、イベント用の洗い場の十分な確保は難しい面もあり、約束事の徹底を図っていきたい。
⑤	女子トイレの課題	女子トイレに行列ができやすく対応を求められているもので、仮設トイレ設置、男子トイレの時間を区切った活用、体育館側トイレの利用等、様々な方策が考えられるが、今後検討していきたい。
⑥	抽選会の課題	スタンプラリーやクイズで何度も抽選できることから、それを楽しんでいる方がおられ、その結果、大勢の方に商品が回らなくなる話である。割り切りと、価格の安い商品の数を多くするなど対応したい。
⑦	餅まき	子供と大人を分けて実施しているところであるが、子供が終了した後、大人が急いで場所を確保する動きとなることから混乱が生じる。子供を全部だしてから大人を入れる体制を考えたい。
⑧	警備について	会場北側の道路での事故(林業まつりでは無い)発生などから、警察から、横断者等への対応を求められ、本年度は1名増員したが、それでも人の流れを捌くのが困難で、警備会社の自主判断で、非番の職員も動員して対応していただいた。次回は、他のイベントの開催状況等も考慮し、安全確保体制を検討する必要がある。
⑨	対応済み案件	<p>ア 餅まき袋のホッチキス止めの変更については対応済み。</p> <p>イ 行事時間の事前の周知について、子供などが参加できるイベントの時間帯については、新聞、チラシに掲載した。</p> <p>ウ 木工教室での一部県民による大量の木材の搬出については、山形木材業組合の提案により、子供を対象とする方法に切り換え、新聞、チラシ、看板等で周知を図ったところ、大きな混乱はなかった。</p> <p>エ 林業まつりの規模拡大に伴う、各林業振興協議会出展経費の増大の課題については、これまで、地域振興の視点から無料で出展者にサービスしていたものを、各地域林業振興協議会で、出展費用の一部を有料化するなどで、本年度はより適切な対応がなされた模様。</p>

3 木産協研修会の結果について(本年度は3部構成で実施)

(1) 研修会の目的

地域の主要資源である木材を取り巻く状況は大きく変化しようとしている。

これまでの住宅需要に変わり、木質バイオマス発電等の新しい取り組みが数多く計画されると共に、これまで県内に存在しなかった高次加工工場が新庄市に誘致され、地域材を活用した集成材製造工場として外材集成材等との競争に打って出ようとしている。

一方、県行政側も「森林ノミクス」を提唱し、地域の森林資源や関連技術を活用した地方創生を推進することを表明しており、南陽市文化会館に代表されるような公共木造施設の建設の動きも活発である。これら両者の動きが、これからの本県の森林・林業・木材産業をけん引すると言っても過言ではない。

この中であって、本協同組合(約160社)では、構成員の業種が多岐にわたることでの意見の不一致や従来の中間品製造業界の考え方から抜けきれない組合員も多く存在しており、これらの追い風を十分に活用できていない現状にある。

このため、県民への普及啓発等を目指した家具等の高次加工事業体との連携強化の研修会や現代的課題となっている環境保全と連携した木材取引形態である「合法認証木材」に関する知識の充実による適切な取引の実施、さらに本県に進出する集成材製造事業体の本社工場等の視察研修等の3つの研修を集中的、組織的に実施し、組合員の資質の向上を目指したものである。



合法木材研修会



天童木工研修

項目・回数	第1回	開催日時：平成27年8月28～29日	参加者：組合員名13名
開催場所	(1) 実地見学 天童木工、 (3) 実施見学 (株)スペースパーツ山形	(2) 講 義 (4) 講 義	市内催事場会議室 山形ビッグウィング
テーマ	「地域材の高度加工技術」及び「地域材の普及啓発」について		
講師	(1) 天童木工 西塚部長 (2) 山形県林業振興課 藤城木材産業振興主査 (3) 講演及びパネルディスカッション参加 (まちと森林をつなぐ木づかい全国キャラバン) 東京都市大学工学部建築学科 工学博士 大橋好光氏等		
研修内容	圧縮木材の製造及び商品化、森林ミクス構想と取り組み、今後の木材利用方向等		

項目・回数	第2回	開催日時：平成27年9月17日13時～17時	参加者：組合員63名
開催場所	ホテルキャッスル会議室		
テーマ	合法木材の実務及び取り巻く状況		
講師	(1) 合法木材の実務 : 山形県木材産業協同組合専務理事 (2) 合法木材を取り巻く状況：筑波大学准教授 立花敏氏		
研修内容	合法木材の実務及び木材産業を取り巻く状況		

項目・回数	第3回	開催日時：平成27年11月12～13日	参加人数：組合員16名
開催日時	平成27年11月12日～11月13日		
開催場所	(1) 福島県塙町集成材工場 (2) 山形県南陽市文化会館		
テーマ	集成材製造技術・耐火集成材による大型木造建築技術等		
講師	(1) 協和木材株式会社今野部長等、(2) 南陽市文化会館 安部史生主幹		
研修内容	集成材製造技術及び協和木材㈱の本県での取組姿勢、南陽市文化会館の木造化の課題等		



協和木材研修



南陽市文化会館研修



(2) 事業の成果

3回の研修を実施し、約100名の組合員が参加し、本県木材業界を取り巻く現代的課題や取り組むべき方向について様々な知見を得ることができたと考えている。

ア 「地域材の高度加工技術」及び「地域材の普及啓発」等について

県内の家具メーカーによるスギ集成材の高度加工技術による住宅用製品をはじめ、知事の提唱する「森林ノミクス」について理解を深めると共に、地域材の普及啓発に関するシンポジウムに参加する等を通して、今後の取組みの材料を得ることができた。

イ 合法木材制度の実務及び取り巻く状況等について

TPP交渉においても違法伐採に関する取組みが決定されたように、地球規模での森林・木材による環境保全に関する関心が高まっており、国内で木材を利用するにあたり、その合法性を証明されたもののみを利用する必要性について、様々な観点から知見を得た。また、この制度は、国のガイドラインに基づき木産協が任意に創設しているものであり、その意味でも木材業界としての社会的責任について認識を深めることができた。

ウ 集成材製造技術及び耐火集成材による大型建築技術等について

森林資源が充実しつつある中、県の構想に沿って、集成材工場が進出することになり、製造技術のみならず素材の集荷及び製品の販売方針について、木産協組合員は大きな影響を受けることが予想される中、主力工場のある福島県の「塙工場」に出向き、現場の説明を受けながら、技術内容及び各種方針等について、協和木材側の考え方を確認することができた。

また、南陽市の文化会館では、県内企業が開発した耐火集成材を活用し、国内最大級の文化施設を建設するにあたり、耐火集成材製造技術及び地域業界の協力体制等について知見を得た。

これら研修を通して、今後の取組についても、意見交換等を行うことができた。

また、これら研修を実施するにあたり、山形県中小企業団体中央会の組織集中指導事業等を取り入れ、経費の一部に充当している。

4 木工品のコンペ事業を開始

この度、県補助事業として「やまがたの木のある暮らし・街づくり促進事業」に取り組むことになった。年度後半に入ってからからの取り組みであり期限等の制約もあるが、手薄だった部門の強化に繋がることもあり、木産協の力を集中させて実施することにしたものである。事業イメージは以下のとおり。

現状と課題(とりくみの背景)

- ・住宅部材のほかに、間伐材や広葉樹を木工品等に活用し、森林整備に繋げる。
- ・県内木工品は、一部で産地形成がなされているが、市場のシェアは極めて少ない。
- ・そのため、木工業者と連携し、商品開発等により、県産木材の普及促進を図る必要がある。

目指すべき木工品の振興

ねらい

- ・県産スギ等を積極的に利用した木工製品コンテストを実施し、デザイン・品質の向上を図る。
- ・優秀作品を多様なチャンネルを通じて利用拡大を図り、木のある暮らしづくりを推進する。

① 県産木工品プロダクトコンペ

- 木工品のコンテストを実施
- ・募集要件は、県産スギ材を主体とし、販売可能なもの。
- ・テーマを決めて募集
- 審査委員会により優秀作品を選出
- 有識者によるデザインアドバイスを実施

② 県産木工品普及促進・販路拡大

- 作品集の作成や展示会、県のホームページによる周知

12月から募集を開始するよ!!
みんな応募してね!!

効果

- ・多くの県民が木製品に触れることで、身近に木の良さ、森林の大切さを認識できると共に、木のある暮らしの普及を図るものである。
- ・木工による地場産業の進行、伝統技術の継承に結びつける。
- ・木工品のデザインによって、企業とのコラボレーションが可能となり県のイメージアップに繋がる。



<新組合員の紹介> 有限会社三英クラフト 代表取締役 星川隆弘

この度、山形県木材産業協同組合に加入させていただきました、金山町の有限会社三英クラフトと申します。

弊社は、三英興業株式会社が行なっていた山林経営管理を引き継ぎ、平成 14 年に設立しました。木材の生産、販売を行うと共に、地域の森づくり活動への積極的な参加等、金山杉の循環利用を目指して行っております。

業界を巡る情勢は厳しさを増しておりますが、資源のエネルギー利用等の新規需要等の変化に対応すべく邁進していきたくと思っております。今後、皆様からご指導をいただき勉強して行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

5 お知らせ、会議・イベント等

<関係組合員に書籍プレゼント>

「木材と住宅のトラブル回避」

～木材業者・工務店が最低限知っておきたい法律知識～ 著者：弁護士 秋野卓生氏
この度、全木連が木造住宅等地域材利用拡大事業を活用し製作した書籍を、木産協で購入し、関係組合員の皆さまの「正月」の読み物としてプレゼントさせていただくことにしたもので、同封してあります。

これからますます増大してくると予想される木材取引のクレームや瑕疵について、実際の事例を基に執筆したものであり、役立つ面が多いと考えています。

まずは、ページをお開き下さい。

(1) 合法木材証明に係る事業者認定<特別研修会>の開催 (重要)

日時：平成27年12月4日(金) 15時～

会場：山形県産業創造支援センター2階第1会議室A (山形市松栄一丁目3-8)

内容：合法木材事業者認定要領第六の技術研修の実施及び修了証の交付の規程により、開催するもので、今回は、9月17日開催の研修会に都合で参加できなかった方やその後の新規取得希望者を対象に実施するもの。今回受講しない事業体は原則的に資格が失効しますのでご注意ください。

その他：該当の方には、別途ご連絡をいたします。

(2) 「どよまん 冬のプレゼントスペシャル!!」(木製品プレゼントもあるよ!)

日時：平成27年12月12日(土)16時26分～17時24分 (3分半放映)

チャンネル：TUY (テレビユー山形)

内容：社会福祉法人「牧場人会・寒河江共労育成園」を紹介。

この施設は、障がい福祉サービス指定事業所で有り、雇用が困難な方を自活に必要な訓練を行うと共に、職業を与え自活できるように支援している。

施設の主な取り組みは、木工品製作であり、林業まつりでも常連の出展者として参加頂いている。今回は、制作する人や製品及び支える人等に焦点をあてて紹介をさせていただくことにしている。(アナウンサーが取材する形態)

(3) 持続的林业経営推進大会実行委員会の開催(「美しい森林づくり」から名称変更)

日時：平成27年12月7日(月)13時～

会場：村山総合支庁402会議室(木産協からは専務理事が代理出席予定。)

(4) 第6回ものづくり日本大賞において本県勢が大活躍!

本賞は、日本の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献しており、製造・生産現場の中核的人材や、熟練人材、今後を担う若手人材等の中から、特に優秀と認められる個人、グループに対して授与されるもの。誠にありがとうございました。

	種類	事業体名	部門	東北の受賞件数
1	内閣総理大臣賞	㈱天童木工	製品技術開発部門	1部門1件
2	特別賞	㈱シェルター	製品技術開発部門	1部門2件
3	東北経済産業局長賞	(有)山形工房	海外展開部門	4部門13件

シェルターは賛助会員、天童木工や山形工房(ケン玉)は林業まつり等での出展・参加者

6 10月期の住宅着工状況

引き続き数字は好調だが、2×4のウェイトが高まっており、年次累計ではすでに千戸を突破し、過去最高になる勢い。TPP大筋合意の木材関係の目玉でもあるSPFは、今後さらに勢いを増して住宅市場に入り込むことが予想され地域材業界としては踏ん張りどころとなる。

1 県内新設住宅着工戸数(平成27年10月)

(単位:戸)

年月	総数	利用関係別		資金別				木造住宅		木造内訳		
		持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	民間	その他	戸数	木造率	在来軸組	プレハブ	2×4
22年	4,125	2,533	1,140	40	412	3,777	348	3,319	80.5%	2,479	112	728
23年	4,336	3,001	1,100	8	227	3,903	333	3,615	83.4%	2,778	121	716
24年	4,716	3,086	1,273	61	296	4,468	248	3,917	83.1%	2,940	156	821
25年	5,323	3,543	1,372	21	387	5,136	187	4,515	84.8%	3,453	152	910
26年	4,550	2,529	1,505	83	437	4,335	215	3,797	83.4%	2,752	106	939
26.1~9	3,302	1,909	1,002	78	313	3,124	178	2,741		2,070	88	583
10月	395	199	144	3	53	384	11	353	89.4%	227	7	119
11月	465	238	179	2	46	445	20	377	81.1%	261	7	109
12月	388	183	180	0	25	382	6	326	84.0%	194	4	128
27.1月	249	125	74	0	50	248	1	203	81.5%	141	8	54
2月	367	194	124	0	49	364	3	297	80.9%	166	13	118
3月	366	278	62	1	25	363	3	343	93.7%	262	14	67
4月	452	302	105	1	44	446	6	425	94.0%	288	11	126
5月	471	313	102	0	56	465	6	417	88.5%	330	11	76
6月	576	358	123	1	94	574	2	448	77.8%	322	15	111
7月	511	289	174	6	42	507	4	431	84.3%	305	7	119
8月	500	276	195	1	28	486	14	444	88.8%	267	8	169
9月	542	267	223	1	51	532	10	437	80.6%	279	11	147
10月	417	238	133	2	44	409	8	367	88.0%	247	9	111
対前月	76.9%	89.1%	59.6%	200.0%	86.3%	76.9%	80.0%	84.0%	-	88.5%	81.8%	75.5%
対前年同月	105.6%	119.6%	92.4%	66.7%	83.0%	106.5%	72.7%	104.0%	-	108.8%	128.6%	93.3%
26.1~当月	3,697	2,108	1,146	81	366	3,508	189	3,094	83.7%	2,297	95	702
27.1~当月	4,451	2,640	1,315	13	483	4,394	57	3,812	85.6%	2,607	107	1,098
対累計前年	120.4%	125.2%	114.7%	16.0%	132.0%	125.3%	30.2%	123.2%	-	113.5%	112.6%	156.4%

2 地域別新設住宅着工戸数(平成27年10月)

(単位:戸)

市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計
県計	417	4,451	105.6%	120.4%	3,812
山形市	97	1216	92.4%	119.1%	960
上山市	20	118	333.3%	203.4%	107
天童市	22	309	56.4%	107.7%	279
山辺町	5	56	55.6%	77.8%	53
中山町	0	44	0.0%	258.8%	44
東南村山	144	1,743	87.8%	119.8%	1,443
寒河江市	14	186	175.0%	150.0%	149
河北町	8	77	200.0%	163.8%	70
西川町	1	8	-	57.1%	8
朝日町	0	7	0.0%	30.4%	6
大江町	0	16	0.0%	100.0%	16
西村山郡	23	294	153.3%	131.3%	249
村山市	5	86	125.0%	268.8%	82
東根市	41	340	178.3%	153.8%	305
尾花沢市	3	21	-	161.5%	19
大石田町	2	36	200.0%	600.0%	10
北村山	51	483	182.1%	177.6%	416
村山地域	218	2,520	105.3%	129.2%	2,108
新庄市	17	106	188.9%	114.0%	100
金山町	0	11	-	220.0%	11
最上町	0	3	-	60.0%	3
舟形町	0	8	-	53.3%	8
真室川町	0	10	-	142.9%	10

市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計
大蔵村	0	5	-	41.7%	5
鮭川村	0	5	-	250.0%	5
戸沢村	0	4	-	133.3%	4
最上地域	17	152	188.9%	107.0%	146
米沢市	39	541	95.1%	141.3%	431
南陽市	17	138	141.7%	109.5%	135
高島町	5	70	100.0%	127.3%	67
川西町	8	37	800.0%	86.0%	36
東南置賜	69	786	116.9%	129.5%	669
長井市	18	121	66.7%	79.6%	103
小国町	1	11	100.0%	122.2%	11
白鷹町	4	36	400.0%	144.0%	35
飯豊町	2	11	100.0%	40.7%	11
西置賜	25	179	80.8%	84.0%	160
置賜地域	94	965	104.4%	117.7%	829
鶴岡市	38	359	140.7%	101.7%	338
三川町	4	20	16.0%	50.0%	19
庄内町	6	63	85.7%	95.5%	54
田川	48	442	81.4%	96.3%	411
酒田市	38	352	126.7%	130.9%	299
遊佐町	2	20	-	35.7%	19
飽海	40	372	133.3%	114.5%	318
庄内地域	88	814	98.9%	103.8%	729

注:累計は平成27年1月~